

第4章 推進施策

施策1. 多様な“中目黒らしさ”が感じられる街へ（街並み・環境）

（1）個々のエリアの魅力を最大限に引き出す、街並みづくり

中目黒駅を中心に、駅前及び駅南口商店街、目黒川沿い、山手通り沿いでは多くの商業・業務施設が集まり、高い集客力があります。こうした賑わいのある商業・業務機能の集積エリアにおいては、多くの人が足を止め、思わず立ち寄りたくなるような、魅力ある街並みづくりをハード面とソフト面から一体的に展開します。

また、住宅地としても、交通利便性が高く、教育・行政機関や商業・医療施設などの生活を支える機能が集積している地区でありながら、目黒川沿いの桜並木などの緑を身近に感じられる環境であることから、高い人気を誇っています。こうした住宅地としての利便性と快適性を兼ね備えた魅力を更に高める環境づくりを推進します。

<駅前エリア>

一日平均約20万人の乗降客数を誇る中目黒駅の駅前エリアは、地区の玄関口として顔となる場所です。しかし、通勤・通学ラッシュ時の改札付近の混雑、待ち合わせの人などによる路上や店舗前での混雑が課題となっています。そのため、山手通りの拡幅に合わせた横断環境の改善や、駅周辺の滞留空間整備を促します。さらに、そうした滞留空間を活用し、地区内の様々な魅力スポットの情報を集約・発信する拠点整備を誘導することで、来街者の回遊を促します。

また、上目黒1丁目20、21番街区で進められている地域関係者による建築物の共同化の検討に合わせ、駅前の混雑解消に向けた鉄道事業者などによる交通基盤施設の整備について検討し、当該エリアの拠点性を高めていきます。

<事業内容>

- 中目黒駅周辺の混雑緩和に向けた、快適な滞留空間の整備と活用の検討
- 中目黒駅高架下横断歩道の拡幅
- 回遊を促すための情報発信
- 上目黒1丁目20、21番街区における地域関係者を主体とした建築物の共同化の検討

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

<駅南口側エリア>

通勤・通学による通行量を活かし日常的な買い物や飲食を楽しむ場としての利用を推進することが求められます。

そこで、目黒区総合庁舎の来庁者や駅高架を挟んだ東西商店街の来街者の動線をつないで新たな人の流れを生み出すため、多様な人々が交流する場にふさわしいサイン表示や建物の色調の統一などによる景観の連続性創出の取組みを進めます。また、様々な人がゆったり歩いて店舗めぐりを楽しむことができるよう、敷地内の店舗前空間を活用して、休憩スペース等の確保を誘導します。併せて無電柱化に向けた検討を行い、道路空間の改善を目指します。

<事業内容>

- 地域の実態に即した街並み・景観ルールづくりの検討
- 敷地内の店舗前空間を活用した休憩スペース等の確保の誘導
- 無電柱化に向けた検討

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

<山手通りエリア>

低層部に飲食店を中心とした店舗をはじめ、事業所や共同住宅が立地する中高層建物が立ち並び、さらに駅南東方面に裁判所の建設が予定されるなど、職・住・遊の多様な都市機能の集積するエリアです。山手通りは、本地区における歩行者の回遊を支える主要な幹線道路としての役割を担っており、現在行われている道路拡幅工事にあわせて道路環境整備とともに、置き看板やディスプレイの路上はみ出し、放置自転車や路上駐車などの対策が必要です。

そのため、一定のルールに基づいて道路空間の魅力的な活用ができるようにするなどにより、利用者の目が届き、無秩序な路上へのはみ出しや放置自転車、路上駐車がしにくい空間づくりを図ります。また、山手通り拡幅工事に合わせ、無電柱化の工事を実施するとともに、環境に配慮した街路灯や街路樹などの整備に向けた取組を進めます。

<事業内容>

- 地域の実態に即した街並み・景観ルールづくりの推進【再掲】
- 山手通り拡幅整備事業の推進
- 山手通り沿いの道路空間活用の検討
- 景観に配慮した街路樹及び街路灯の整備
- 無電柱化の整備

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す



<駅南側エリア> 敷地内の店舗前空間を活用した休憩スペースなど

＜目黒川エリア＞

目黒川沿いは、準工業地域に指定されており、以前は工業エリアとしての土地利用が中心でしたが、現在は目黒川や桜並木が魅力となり、低層部には個性的な店舗や事業所、中上層部には住居が入る建物が建ち並ぶエリアとして賑わいを見せています。さらに、東京音楽大学の開校により、地区内の新たな文化・芸術の拠点が形成されることが見込まれます。

そのため、水や緑を感じられる環境を守りつつ、目黒川船入場等のオープンスペースを利用した文化・芸術を享受するための憩いのスペースの整備や、河川沿いの快適性や景観向上など様々な取組を検討していくことで、エリアの魅力向上を図ります。

＜事業内容＞

- 地域の実態に沿った街並み・景観ルールづくりの推進【再掲】
- 地域連携による公共・公益スペースを活用した滞留・交流空間創出の検討

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

＜住宅市街地エリア＞

交通や買物などの利便性の高い場所でありながら、身近に緑が感じられ、落ち着いた暮らしができる地域であることが魅力となっています。

良好な住環境を保全・育成するとともに、暮らしやすい都市型住宅地としての市街地環境を形成していくために、関係者間の合意に基づく街並み・景観ルールづくりの推進に向けた取組を進めていくとともに、身近な民有地の緑化の推進を図ります。

＜事業内容＞

- 地域の実態に沿った街並み・景観ルールづくりの推進【再掲】
- 身近な緑の充実

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

（２）ごみやタバコのポイ捨てなどの無い、街の美観を維持する

道路や公園、店舗等の植え込み等へのごみやタバコのポイ捨てがあり、街の美観を損ねている状況にあります。そのため、地区内の事業者に対し、店舗やオフィス等の利用者への喫煙マナーの周知徹底を促すとともに、敷地内又は複数事業者共同での喫煙スペースの設置などを働きかけます。合わせて、喫煙スペース周辺における受動喫煙防止に向けた取組を行うことで、喫煙者・非喫煙者ともに過ごしやすい空間づくりを推進します。また、イベント等の際にごみの持ち帰りを参加者に促す取組も進めます。

こうしたごみやタバコのポイ捨て抑制のための取組と並行し、「自分たちの街は、自分たちできれいにする」という考え方のもと、区民・事業者・区が協働し、定期的な清掃活動を実施します。それにより、街の美観を常に保ち、新たにポイ捨てさせない街の雰囲気づくりに努めます。

＜事業内容＞

- 地域の住民及び事業者による清掃活動の促進
- 敷地内及び複数事業者共同による、利用者向け喫煙スペース設置の促進
- 地域連携によるゴミ・タバコのポイ捨て等に対するモラル向上の推進

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

(3) 緑の充実を図る

個々の住居や公共施設、公園などの充実した身近な緑は、落ち着きのある住宅地の魅力を支える重要な役割を果たすとともに、個性豊かなこだわりを持った店舗が立ち並ぶ、中目黒らしい商業地の賑わいを支えており、地域の価値を高めています。こうした地域の魅力を守り、維持するために、公共施設や道路沿いの街路樹、公園などにおける緑の充実を図ります。

また、民有地における接道部緑化や壁面・屋上緑化等に対する緑化支援制度や、「みどりの景観ガイドブック」などを活用しながら、緑の量の確保や質の向上に向けた取組を進めていきます。

<事業内容>

- 緑の充実(公共施設、街路樹、公園、ふれあい広場など)
- 民有地の緑化支援
- 「みどりの景観ガイドブック」による緑化の推進

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す



地域連携による清掃活動



住宅地の緑

(4) 目黒川の良好な環境を維持する

目黒川やその沿道の桜並木は、地区の住民にとって安らぎと潤いを与えてくれる貴重な環境資源であり、来街者にとってこの地区を訪れたいと思う魅力でもあります。地区内を悠々と流れる川や緑によって、沿川に建ち並ぶ個性的な店舗と住宅地の共存を可能にし、良好な環境を形成しています。そのため、今後も目黒川やその沿道の桜並木などの自然を守り続けられるよう、目黒川周辺の良好な環境の保全を推進します。

また、沿川道路の路面改修を行うことで、保水性向上を図るとともに、区民や来街者の通行の安全確保を図ります。

なお、目黒川の桜開花期間中の交通安全対策やトイレ、ゴミ問題等の課題への対応については、引き続き目黒川桜まつり等運営協議会で改善に向けた取組を進めていきます。

<事業内容>

- 目黒川の水質浄化の推進
- めぐるサクラ再生プロジェクトの推進
- 環境に配慮した沿川道路整備
- 目黒川の桜開花期間中の課題への取組

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す



目黒川で行った「いきもの発見隊」

施策 2. 誰もが安全で安心できる街へ（暮らし・防犯・防災）

（1）暮らしを支える環境整備を推進する

本地区は、住宅地と商業地とが共存することが魅力の一つとなっていますが、一方で商業や業務機能の集積が進むことで、騒音などの課題が顕在化してきています。また、来街者や訪日外国人旅行者等の増加に伴い、誰もが安全・安心で快適に過ごせる環境づくりに向け、住民や事業者だけでなく来街者等にも働きかけて、マナーを守り合う雰囲気をつくることが重要となっています。そのため、暮らしと生業が調和しやすい土地利用を検討するとともに、町会・自治会、住区住民会議、商店会や企業等を通じ、地域のモラル向上と魅力づくりをとりまとめた「なかめスタイル」の実践に向けた取組を進めていきます。

また、住民や事業者によるゴミだしのルールが守られず、近隣トラブルに発展する事例が見られることから、「なかめスタイル」の普及を通じ、住民及び事業者のごみ出しルールの周知及び順守を促します。

さらに、高齢化や少子化が進む中で、子ども、高齢者、障害のある方など誰もが安心して暮らせるために、建物等のバリアフリー化を推進します。また、民間活力の活用等による子育て世代や高齢者などのニーズに対応する環境づくりを進めます。

<事業内容>

- 住環境と商業・業務環境が調和・共存する土地利用のあり方についての検討
- 地域連携によるゴミ・タバコのポイ捨てや騒音等モラル向上の促進【再掲】
- 建物等のバリアフリー化の推進
- 民間活力の活用等による子育て世代や高齢者などのニーズに対応する環境づくり

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

（2）街の安全を守る防犯対策を推進する

地域住民による各種防犯活動や見守り活動を補い、街頭における犯罪を防止するため、防犯カメラの設置等の取組を促進します。また、夜間の暗がりを減らすことで事故や犯罪を抑止するために設置している私道防犯灯や商店街街路灯について、地域と連携してLED化を促進するなど機能向上を図ります。また、住民や事業者が協力し、地域防犯活動を行うとともに、商業・業務ビルのほか、戸建住宅やマンションの出入口における屋外灯の夜間点灯の誘導などを進めます。

<事業内容>

- 地域と連携した防犯カメラの設置や私道防犯灯等のLED化の促進
- 地域住民及び事業者による防犯パトロールの実施
- 屋外灯の夜間点灯の誘導

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

（3）地域一体となった避難・防災対策を推進する

中目黒駅は一日平均約20万人の乗降客数があり、当該地区は区内でも夜間人口に比べ昼間人口の割合が高い場所であることから、災害発生時に鉄道やバスなどの交通機関が機能しなくな

ると、駅前に多くの帰宅困難者が発生することが予想されます。そのため、鉄道事業者及び駅周辺に立地する事業者等と行政との連携により、帰宅困難者の受け入れ対策の強化を図ります。また、災害時の防災・減災対策として、避難訓練や避難所運営ルールの方策、防災備蓄の確保などを推進するとともに、建物の不燃化、耐震化を進めます。さらに、近年、局地的な集中豪雨が頻繁に発生していることや地区内に土砂災害警戒区域が複数あることなどから、都市型水害対策や警戒避難体制の整備などに取り組んでいきます。

<事業内容>

- 災害時の帰宅困難者対策の推進
- 災害時の防災・減災対策の推進
- 災害用トイレの整備
- 建物の不燃化・耐震化に向けた取組の推進
- 総合治水対策の推進

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す



目黒区総合水防訓練

施策3. ゆったりまち歩きが楽しめる街へ（交通ネットワーク）

（1）道路空間等の安全性を確保する

中目黒駅は一日平均乗降客数約20万人が利用する本地区の玄関口であり、東京音楽大学や東京高等・地方裁判所中目黒分室（仮称）など、新たな施設の開設等に伴い、利用者がさらに増加することが見込まれます。そのため、「目黒区交通バリアフリー推進基本構想」に基づき、子どもや高齢者、障害のある人など、誰もが便利で安全に移動できるように、道路空間や交通施設等のバリアフリー化を推進します。

また、本地区の中央には主要幹線道路である山手通りが貫通しており、地区内道路を通過して山手通りへ向かう自動車交通が多くなっています。駅を利用する歩行者・自転車が増加する朝晩の通勤時間帯を中心に自動車の通行量も増えることから、各々の道路の状況に応じて歩車空間の分離や自転車走行環境の整備等により、歩行者の安全な通行を確保します。

特に、拡幅工事が進む山手通り及び東京音楽大学開校により歩行者の増加が予想される目切坂については、安全な歩行環境の整備を優先的に進めます。

＜事業内容＞

- 目切坂改修工事の推進
- 中目黒駅前におけるバリアフリーに配慮した総合案内板の設置
- 中目黒駅における安全対策（プラットフォームの転落防止）
- 誰もが安全に安心して通行できる道路整備の推進
- 狭あい道路整備の推進
- 視覚的な歩車分離による道路空間の確保
- 自転車走行環境の整備

—山手通り—

- 拡幅事業の推進【再掲】
- 中目黒駅高架下横断歩道の拡幅【再掲】
- 自転車歩行者道の整備
- 無電柱化の推進【再掲】
- 景観に配慮した街路樹及び街路灯の整備【再掲】

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

（2）人にやさしい交通環境の向上を図る

商店街や目黒川沿いの桜並木のある道路などは、自転車や自動車での移動を支える生活道路であるとともに、区民や来街者にとって通り沿いの店舗や自然を楽しむことができる魅力的な空間でもあります。そのため、それぞれの役割を両立しつつ、ゆったりと街歩きを楽しむことができるよう、関係所管と連携して、自転車・自動車の徐行促進などの交通安全対策を図っていきます。また、「なかめスタイル」の普及等を通じて、店舗・事業所の置き看板や商品の道路へのはみ出しの抑制を図り、安全で快適に通行できる道路空間を維持します。

＜事業内容＞

- 生活道路等における自転車・自動車の徐行の促進
- 地域連携による看板や商品の道路へのはみ出し防止の取組

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

（３）自転車の駐輪や走行マナーの向上を図る

目黒区では、中目黒駅前の駐輪場の整備など、駅利用者を中心とした放置自転車対策を進めています。しかし近年、目黒川沿いをはじめとして店舗の分布範囲が拡大していること等により、駅から離れたエリアでの放置自転車が問題となっています。

そのため、自転車等の放置禁止区域の見直しを検討します。加えて、放置自転車の抑制及び住民・来街者の利便性向上に資するよう、道路からセットバックした店舗における、店前敷地を活用した駐輪スペースの確保や、複数店舗による共同での駐輪スペースの確保等、新たな駐輪スペースの設置を促します。さらに、既存駐輪場及び新たに設置する駐輪スペースの利用促進を図るため、多様な媒体を活用し、駐輪場に関する情報発信に努めます。

また、交通安全教室への参加促進、地域一体で取組む自転車クリーンキャンペーン等を通じて、自転車利用者の駐輪・走行マナーの啓発を図ります。

＜事業内容＞

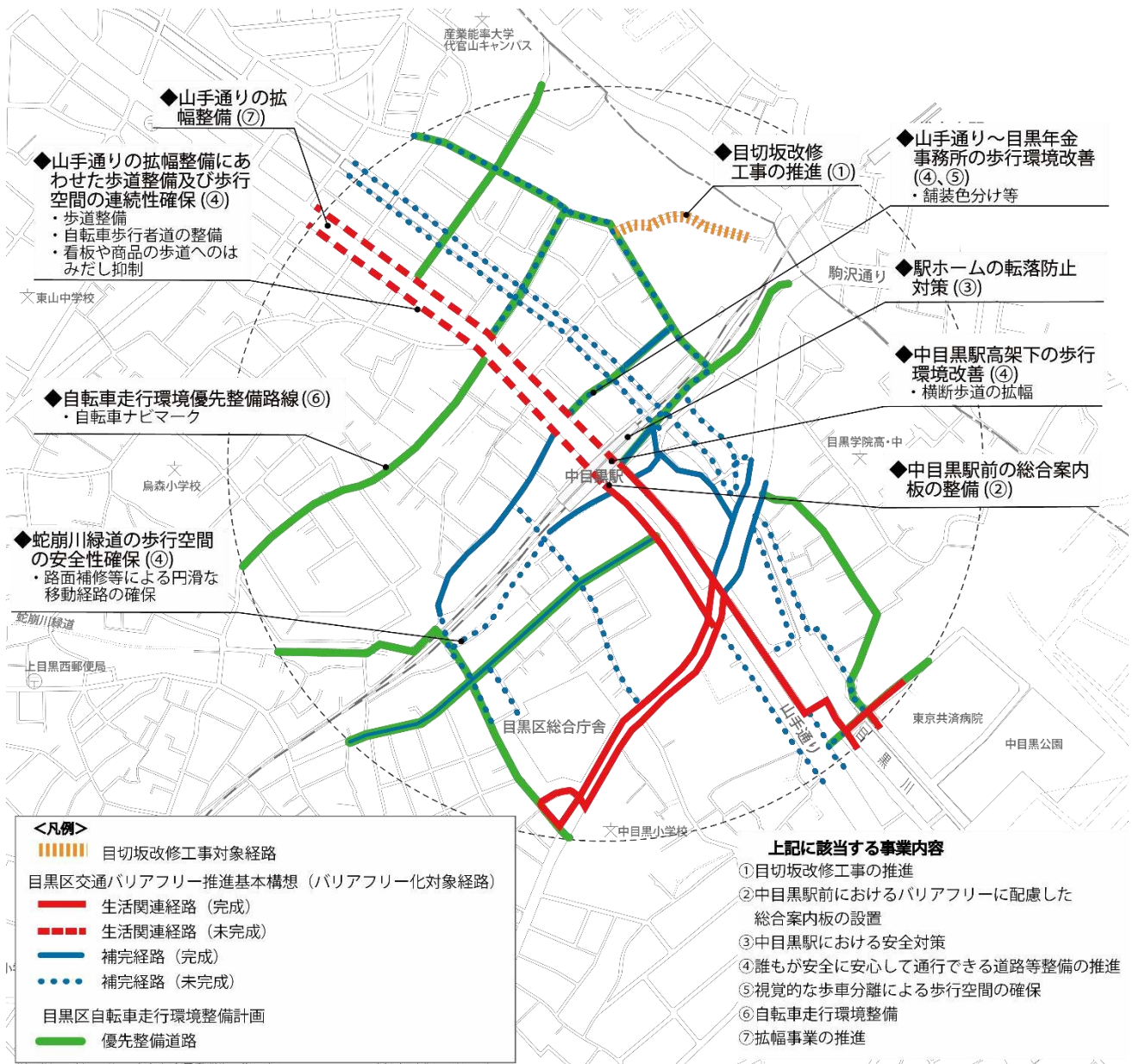
- 自転車等の放置禁止区域見直しの検討
- 街なかの空間を活用した、新たな駐輪スペースの設置促進
- 駐輪スペースの利用促進に向けた情報発信
- 自転車運転者のルールへの遵守とマナー向上に向けた啓発

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す



交通安全教室

整備対象道路等



施策 4. もっと居たくなる、また来たくなる街へ（活動・情報）

（1）街を満喫できる滞留・交流空間を創出する

本地区には、それぞれ異なる魅力を持つエリアがありますが、来街者の1回あたりの滞在時間は大半が3時間未満と短く、訪問先も駅前や目黒川沿いが中心となっています。多様な街の魅力を満喫し、地区全体としての価値向上につなげていくためには、区民や来街者が長く滞在し、様々なエリアの回遊を促す取組が求められます。

そのため、中目黒駅周辺における、滞留空間創出の検討や、子どもや高齢者、障害のある人など誰もが利用できる案内板を設置します。

また、区民や来街者が足を止めて休憩できるよう、公園などの公共空間等を活用したオープンカフェや休憩スペースの設置の検討、地元クリエイターや創作活動を行う区民が制作したアート作品の展示など、魅力ある新たな滞留・交流空間づくり及びその維持管理についての検討を進めます。

<事業内容>

- 中目黒駅周辺の混雑緩和に向けた、快適な滞留空間の整備と活用の検討【再掲】
- 中目黒駅前におけるバリアフリーに配慮した総合案内板の設置【再掲】
- 地域連携による公共・公益スペースを活用した滞留・交流空間創出の検討【再掲】

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

（2）周辺地域との連携により、新たなネットワークを創る

東京音楽大学の新キャンパス整備にあたっては、目切坂に沿った「みどりの鎌倉街道」やキャンパス内を縦断する「音楽のみち」など、中目黒駅と代官山を結ぶ動線が整備され、新たな人の流れが生まれるものと予想されます。こうした機会を活かし、本地区と代官山との連携を強化することで、区民や来街者がさらに街を楽しむことのできるネットワークの創出を図ります。

また、東急及び東京メトロ沿線や本地区周辺には、再開発が進む渋谷及び目黒の他、自由が丘、恵比寿、大橋、祐天寺、学芸大学など、本地区とは異なる様々な魅力を持つ地区が集まっています。こうした周辺地区のそれぞれの特性や利便性を活かして集客・回遊の面で連携することで、多様な人々の交流の創出を図ります。

さらに、自転車シェアリング事業の実証実験など、気軽に自転車移動ができる仕組みづくりにより、周辺地域を含め、移動・交流の活発化を検討します。

<事業内容>

- 中目黒と代官山との連携強化
- 目黒川や鉄道網などを活かした、周辺地域との連携イベント等の展開
- 実証実験による自転車シェアリング事業

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

(3) 中目黒ならではの魅力を高める新たなコンテンツを創る

本地区では、桜まつりや夏まつりなどの四季を通じたイベントの開催時には、地区外のような場所から多くの来街者が訪れています。一方、イベントの無い時期や平日における集客が落ち込む傾向にあることから、年間を通じて安定して区民や来街者が訪れ、街を楽しむことのできる取組が求められます。

そのため、地区内の店舗相互の連携・協力、東京音楽大学との音楽を通じた連携を図る取組、さらに、地元クリエイターや創作活動を行う区民による作品の展示や販売、それらの回遊を促す仕掛けづくりなど、周辺地域に配慮しながら、中目黒らしさを高めるための取組を促進し、本地区への愛着やブランド力の向上を図ります。

<事業内容>

- 公園等のオープンスペースを活用した多彩なイベントの開催
- アートによる各店舗の商品・サービスの付加価値向上

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

(4) 多様な情報提供により、滞在時間の充実を図る

本地区は山手通りによってエリアが分断されており、地区全体としての回遊性に乏しいことが課題となっています。中目黒駅前では、駅乗降客や待ち合わせをする人々など、多くの人の滞留が見られることから、これを地区全体の商店街の活性化に繋げる取組が必要です。

そのため、地区内各エリアに人を呼び込むとともに、地区内での回遊を促進できるよう、中目黒駅前における各エリアの魅力発信や案内板の設置、まち歩きマップ等の活用など、多様な情報提供に取組みます。

また、増加する訪日外国人旅行者等が快適に過ごし、地区の自然、伝統・歴史だけでなく新たな文化・芸術も含め中目黒の魅力を堪能できるよう、多言語での情報発信など今後の取組を検討します。

さらには、区民や来街者が快適に街を回遊できるよう、スマートフォンやタブレット等の多様な情報媒体による情報発信、公衆無線LANなど通信環境の整備を進めます。

<事業内容>

- 中目黒駅前におけるバリアフリーに配慮した総合案内板の設置【再掲】
- 回遊を促すための情報発信
- 公衆無線 LAN の整備

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

(5) 地区外に対し、中目黒の魅力を発信する

地区外からの来街者の拡大を図るため、新たな魅力として期待される文化・芸術を活かして中目黒への愛着やブランド力の強化を図るとともに、中目黒の魅力を地区内外に伝えるため、多様な情報発信に取組みます。また、「なかめスタイル」の普及にあわせ、地域関係者と連携しながら、街づくり活動の情報を発信していきます。

<事業内容>

- 中目黒への愛着やブランドイメージ力の強化
- なかめスタイルを活用した街づくり情報の発信

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

施策 5. 新しい文化交流が生まれる街へ（文化・芸術）

（1）新しい文化・芸術を発信する

本地区内には、こだわりや個性をもつ店舗や、クリエイターやデザイナーなどのモノづくり人材、先進的なカルチャーを発信する企業などが立地しており、東京音楽大学の開校等に伴い、さらなる集積が期待されます。こうした中目黒の特色を活かして、区民一人ひとりが文化・芸術を身近に感じられる街づくりが求められます。

さらに、地区に継承されてきた伝統や歴史・文化を伝える「古きよきもの」と、今後新たに創出される「新しいもの」とが共存・調和する街づくりを誘導し、文化・芸術を通じて、多様な人々のネットワークが生まれることが望まれます。

そのため、地区内外から文化・芸術の発信地としての注目を集めることができるよう、歴史・文化的資源をはじめ、街なかの様々な空間を活用したアート作品の展示やアートイベントの開催など、中目黒の魅力に触れられる環境づくりを図ります。

さらに、東京音楽大学との連携により、音楽体験や教育機会の創出、キャンパス内外での学生やクリエイター、区民との交流を通じ、様々な人々との連携や出会いの場づくりを進めます。

<事業内容>

- 公園等のオープンスペースを活用した多彩なイベントの開催【再掲】
- 区民や来街者に向けた参加型イベントの開催
- 地域連携による公共・公益スペースを活用した滞留・交流空間創出の検討【再掲】
- 東京音楽大学との連携による多彩な人材・文化の交流促進

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

（2）意欲ある多様な事業者を支える

本地区には特色ある4つの商店街があり、飲食をはじめ多様な業種の店舗が集積しています。一方、これまでの事業者の高齢化などに伴い貸店舗が増加しており、こうした店舗では中目黒の個性や魅力を発揮することが難しく、働く人や訪れる人が減少してしまうことが危惧されます。

そのため、目黒区産業振興ビジョンに基づき、来街者にとってもいつまでも魅力や活力を保ち高めていくために、中目黒の特性を生かした個性ある商業・業務環境づくりを地域関係者の方々と検討していきます。同様に、意欲ある多様な事業者に対して、商店会等の取組を広く紹介していくことを通して、地域での人脈づくりを支援し、本地区への定着化を図ります。

<事業内容>

- 中目黒での事業展開にチャレンジしやすい仕組みづくり
- 意欲ある多様な事業者に対する中目黒への定着促進

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

施策 6. 創造的コミュニケーションが生まれる街へ（街づくり活動）

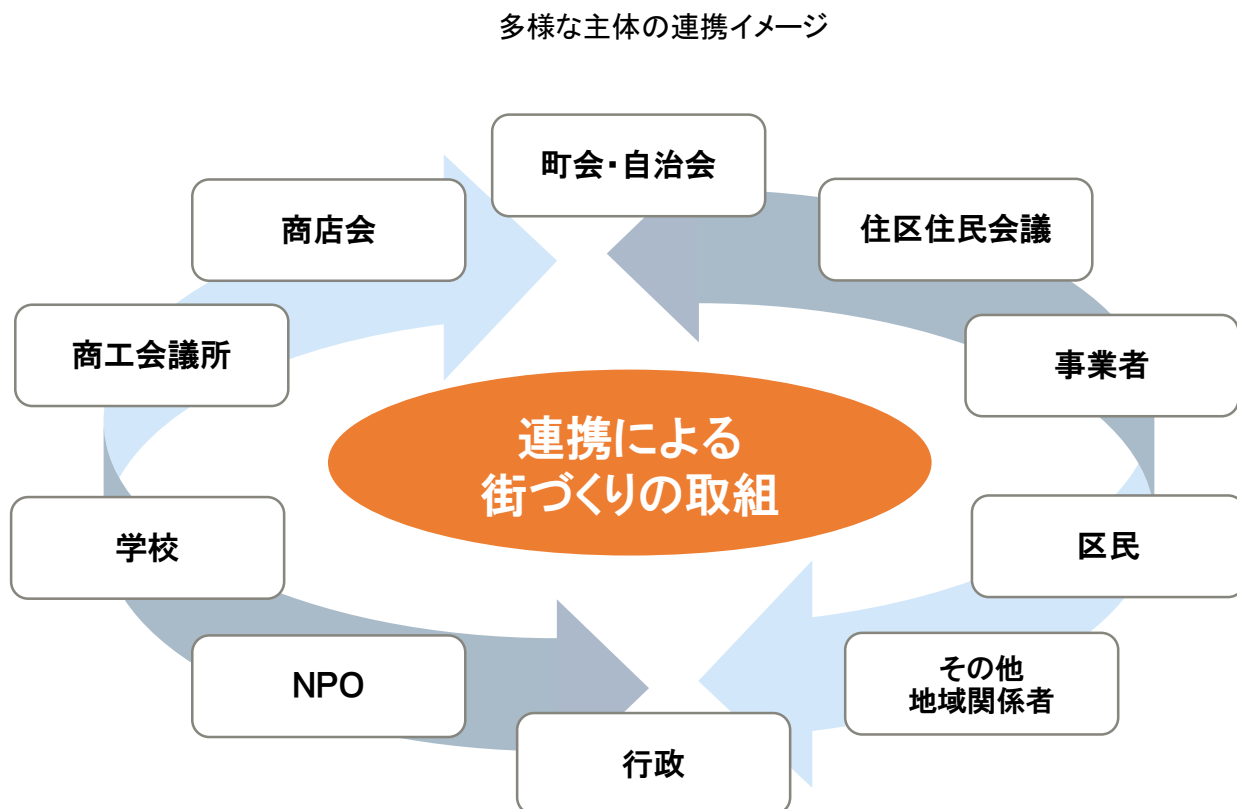
（1）地域の街づくり活動を活性化する

商業地と住宅地が共存する中目黒の魅力をさらに高めていくためには、長年にわたり地域を支えてきた町会・自治会、住区住民会議、商店会等の既存組織による地域活動の活性化が重要です。そのため、それらの組織が行う地域課題解決など公益に資する活動を支援します。

さらに、町会・自治会、住区住民会議、商店会、商工会議所、事業者、学校、NPO、区など、多様な主体が各々の特性を活かしながら連携を図ることで、相互に補完し合える魅力的な街づくりを展開していきます。

また、中目黒は住みたい街としての人気が高く、若い世代の住民や事業者の流入が進んでおり、今後は東京音楽大学が開校することで、本地区で活動する若い世代がさらに増加することが見込まれます。増加する若い世代や学生は、本地区の街づくりの担い手としての活躍が大いに期待されます。そのため、若い世代が街づくり活動に参加しやすい環境を整備していくことにより、交流の機会やネットワークづくり及び主体的な街づくり活動を支援することにより、新たな街づくりの担い手の育成を進めます。

これらの取組を通じて、多様な世代や主体の交流を促進させ、様々な関わり方で連携することにより、地域の街づくり活動の活性化を進めます。



＜事業内容＞

- 町会・自治会、住区住民会議、商店会における街づくり活動への支援
- 多様な主体の特性を活かした街づくり活動の連携
- 学生・若手事業者の街づくり活動への参画促進

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す

（２）地域を支える街づくり組織のあり方を考える

区民や事業者、行政が一体となって街の持続的な発展を支えていくため、整備計画の実現に向けて設立した「中目黒駅周辺地区街づくり協議会」の運営支援を引き続き行っていきます。

また、区財政の歳入増加が見込みにくい中で、少子高齢化の進展や多様化・高度化する住民ニーズに対応するためには、区民や事業者等がこれまで以上に主体性を発揮するとともに、民間活力を積極的・効果的に活用しながら行政と連携・協力して街づくりに取り組む必要があります。そのため、街づくり協議会において、町会・自治会等既存組織や地域関係者と共同して、情報共有、清掃などの地域活動、地域のイベントを行うなど、様々な街づくり活動の連携体制を強化します。さらに、この「中目黒駅周辺地区街づくり協議会」を発展させ、これからの地域主体の街づくり活動組織のあり方や運営方法等について検討を進めます。

＜事業内容＞

- 中目黒駅周辺地区街づくり協議会の運営支援
- 街づくり活動の連携体制の強化
- 地域主体による街づくり組織のあり方や運営方法の検討

※上記の「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は主にソフト事業を指す



中目黒駅周辺地区街づくり協議会

整備スケジュール

「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は、主にソフト事業を指します。

「(新規)」は、新たに計画に位置づけた事業です。

施策	事業内容	取組主体	年度					
			2018	2019	2020	2021	2022	2023以降
1. 多様な“中目黒らしさ”が感じられる街へ	■中目黒駅周辺の混雑緩和に向けた、快適な滞留空間の整備と活用の検討(新規)	事業者、区						
	■中目黒駅高架下横断歩道の拡幅	都						
	□回遊を促すための情報発信(新規)	事業者、区						
	■上目黒1丁目20、21番街区における地域関係者を主体とした建築物の共同化の検討(新規)	事業者						
	□地域の実態に即した街並み・景観ルールづくりの検討	区、区民						
	■□敷地内の店舗前空間を活用した休憩スペース等の確保の誘導(新規)	区民						
	■無電柱化に向けた検討	区、事業者、区民						
	■山手通り拡幅整備事業の推進	都						
	□山手通り沿いの道路空間活用の検討(新規)	都、区、事業者、区民						
	■景観に配慮した街路樹及び街路灯の整備(山手通り)	都、区民						
	■無電柱化の整備(山手通り)	都						
	■地域連携による公共・公益スペースを活用した滞留・交流空間創出の検討(新規)	区、事業者						
	□身近な緑の充実	区民						
	□地域の住民及び事業者による清掃活動の促進	区、区民、事業者						
	□敷地内及び複数事業者共同による、利用者向け喫煙スペースの設置の促進	区民、事業者						
	□地域連携によるゴミ・タバコのポイ捨て等に対するモラル向上の推進	区民、事業者、区						
■緑の充実(公共施設、街路樹、公園、ふれあい広場など)	区							

「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は、主にソフト事業を指します。
 「(新規)」は、新たに計画に位置づけた事業です。

施策	事業内容	取組主体	年度					
			2018	2019	2020	2021	2022	2023以降
1. “多様な中目黒らしさ”が感じられる街へ	□民有地の緑化支援	区、区民						
	□「みどりの景観ガイドブック」による緑化の推進	区、区民						
	■目黒川の水質浄化の推進	都、区						
	■めぐろサクラ再生プロジェクトの推進(新規)	区、区民						
	■環境に配慮した沿川道路整備	区						
	□目黒川の桜開花期間中の課題への取組(新規)	桜まつり等運営協議会						
2. 誰もが安全で安心できる街へ	□住環境と商業・業務環境が調和・共存する土地利用のあり方についての検討	区						
	□地域連携によるゴミ・タバコのポイ捨て等に対するモラル向上の促進【再掲】	区民、事業者、区						
	■建物等のバリアフリー化の推進(新規)	区、区民、事業者、						
	■□民間活力の活用等による子育て世代や高齢者などのニーズに対応する環境づくり(新規)	区、事業者						
	■地域と連携した防犯カメラの設置や私道防犯灯等のLED化の促進	区民、事業者、区						
	□地域住民及び事業者による防犯パトロールの実施	区、警察、区民、事業者						
	□屋外灯の夜間点灯の誘導(新規)	区、区民、事業者						
	□災害時の防災・減災対策の推進	区、区民、事業者						
	□災害時の避難者対策の推進	区、区民、事業者						
	■災害用トイレの整備	区						
	■建物の不燃化・耐震化に向けた取組の推進	区、区民						
	■総合治水対策の推進	都、区						

「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は、主にソフト事業を指します。
 「(新規)」は、新たに計画に位置づけた事業です。

施策	事業内容	取組主体	年度					
			2018	2019	2020	2021	2022	2023以降
3. ゆったり まち歩きが 楽しめる街へ	■目切坂改修工事の推進(新規)	区	■					
	■中目黒駅前におけるバリアフリーに配慮した総合案内板の設置	都、区		■	■			
	■中目黒駅における安全対策(プラットホームの転落防止)	鉄道事業者			■	■	■	
	■誰もが安全に安心して通行できる道路整備の推進	区	■	■				
	■狭あい道路整備の推進	区、事業者	■	■	■	■	■	■
	■視覚的な歩車分離による道路空間の確保	区	■	■	■			
	■自転車走行環境の整備(新規)	国、都、区、警察	■	■				
	山手通り	■拡幅整備事業の推進【再掲】	都	■	■	■		
		■中目黒駅高架下横断歩道の拡幅【再掲】	都	■	■	■		
		■自転車歩行者道の整備	都	■	■	■		
		■無電柱化の整備【再掲】	都	■	■	■		
		■景観に配慮した街路樹及び街路灯の整備【再掲】	都、区民	■	■	■		
	□生活道路における自転車・自動車の徐行の促進	区、警察	■	■	■	■	■	■
	□地域の連携した看板や商品の道路へのはみ出し防止の取組	区、都、警察、区民、事業者	■	■	■	■	■	■
■自転車等の放置禁止区域見直しの検討	区、区民	■	■					
□街なかの空間を活用した、新たな駐輪スペースの設置促進(新規)	区、事業者	■	■	■	■	■	■	
□駐輪スペースの利用促進に向けた情報発信(新規)	区、事業者	■	■	■	■	■	■	
□自転車運転者のルールの遵守とマナー向上に向けた啓発	区、都、区民、事業者	■	■	■	■	■	■	

「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は、主にソフト事業を指します。
 「(新規)」は、新たに計画に位置づけた事業です。

施策	事業内容	取組主体	年度					
			2018	2019	2020	2021	2022	2023以降
4. もっと居たくなる、 また来たくなる街へ	■中目黒駅周辺の混雑緩和に向けた、快適な滞留空間の整備と活用の検討(新規)【再掲】	区、事業者						
	■中目黒駅前におけるバリアフリーに配慮した総合案内板の設置【再掲】	都、区						
	■□地域連携による公共・公益スペースを活用した滞留・交流空間創出の検討(新規)	区、事業者						
	□中目黒と代官山との連携強化(新規)	区、区民、事業者						
	□目黒川や鉄道網などを活かした、周辺地域との連携イベント等の展開(新規)	事業者						
	■実証実験による自転車シェアリング事業(新規)	区、事業者						
	□公園等のオープンスペースを活用した多彩なイベントの開催(新規)	区民、事業者						
	□アートによる各店舗の商品・サービスの付加価値向上(新規)	区、事業者						
	□回遊を促すための情報発信(新規)	区、区民、事業者						
	■公衆無線LANの整備(新規)	区、事業者						
	□中目黒のブランドイメージ力の強化(新規)	区、事業者						
	□なかめスタイルを活用した街づくり情報の発信(新規)	区、事業者						

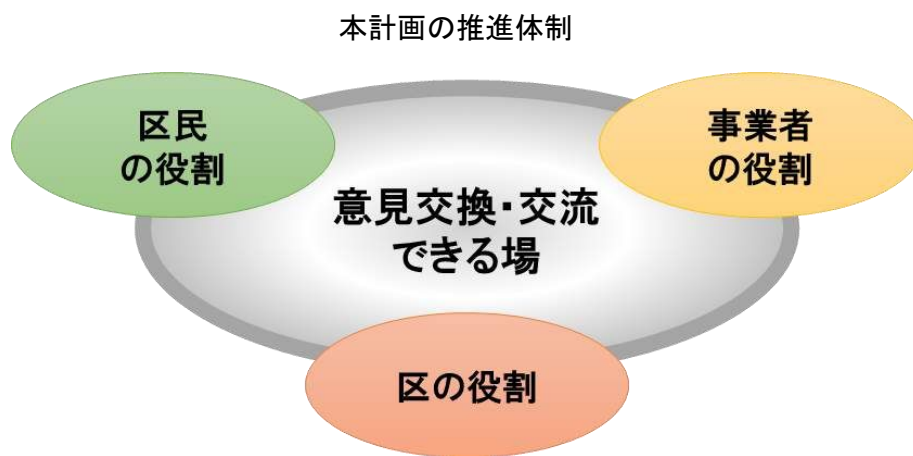
「■」は主にハード整備に関わる事業、「□」は、主にソフト事業を指します。
 「(新規)」は、新たに計画に位置づけた事業です。

施策	事業内容	取組主体	年度					
			2018	2019	2020	2021	2022	2023以降
5. 新しい文化交流が生まれる街へ	<input type="checkbox"/> 公園等のオープンスペースを活用した多彩なイベントの開催(新規)【再掲】	区民、事業者						
	<input type="checkbox"/> 区民や来街者に向けた参加型イベントの開催(新規)	区、事業者						
	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 地域連携による公共・公益スペースを活用した滞留・交流空間創出の検討(新規)【再掲】	区、事業者						
	<input type="checkbox"/> 東京音楽大学との連携による多彩な人材・文化の交流促進(新規)	区、事業者						
	<input type="checkbox"/> 中目黒での事業展開にチャレンジしやすい仕組みづくり(新規)	区、事業者						
	<input type="checkbox"/> 意欲ある多様な事業者に対する中目黒への定着促進(新規)	区、区民、事業者						
6. 創造的コミュニケーションが生まれる街へ	<input type="checkbox"/> 町会・自治会、住区住民会議、商店会における街づくり活動への支援	区、区民、事業者						
	<input type="checkbox"/> 多様な主体の特性を活かした街づくり活動の連携(新規)	区民、事業者						
	<input type="checkbox"/> 学生・若手事業者の街づくり活動への参画促進(新規)	区民、事業者						
	<input type="checkbox"/> 中目黒駅周辺地区街づくり協議会の運営支援	区						
	<input type="checkbox"/> 街づくり活動の連携体制の強化(新規)	区、区民、事業者						
	<input type="checkbox"/> 地域主体による街づくり組織の設立・運営の検討(新規)	区、区民、事業者						

第5章 今後の取組

1 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、区民、事業者、区がそれぞれの役割を担い、連携を図っていくことが必要となります。よりよい街づくりを進めるためには、区はもとより、区民や事業者もまた、街づくりの担い手として主体的に取り組むことが不可欠です。そのため、今後も引き続き、街づくり協議会等の区民、事業者、区が意見交換する場を設けながら、相互に連携・協力し、本計画の実現に向けた具体的な取組を推進します。



<区民、事業者、区による主体的な取組>

(1) 区民の取組

①街づくりへの参加

地区の住民一人ひとりが街づくりを自らの問題として捉え、中目黒駅周辺地区の街づくりに主体的に参加することが重要です。

②身近な街づくりへの取組

生活者の視点から自分達の街の身近な問題・課題を見つめ直し、地域の個性や文化を大切にしながら、潤いのある街の環境づくりや安全・安心・快適に暮らせる環境の維持などに取組むことが大切です。

③街づくりの実践

街づくりを実践するには、役割分担や連携のあり方を踏まえたうえで、街づくり組織に主体的に参画し、各既存組織や区と連携して、本地区の街づくりに取組めます。

(2) 事業者の取組

①地区の将来像の尊重

事業者は、自らの事業活動を推進する上では、地域の個性を活かし文化の創出を目指した地域の将来像を尊重し、地域の個性と文化を大切にする街づくりに十分配慮します。また、地区内に大きな影響を及ぼす取組を行おうとする際には、区民や行政とともに、十分に話し合う機会・場をもつことが必要です。

②街づくりへの協力

事業者は、区民や行政との連携のもとに、地域の街づくりに積極的に協力することが重要です。中目黒らしい街並み・環境づくりや誰もが街を楽しむことのできる仕掛けづくり等、区民・区と連携した街づくりを行います。

(3) 区を取組

①街づくりへの支援

区は、地域の街づくりに関する情報の公開・提供に努め、街づくりの啓発・普及を進めます。また、主体的に取組もうとしている区民や活動組織に対する支援を進め、街づくりに関わる様々な人たちが意見交換・交流できる場を設けます。

②住民参加の街づくりの推進

区民や事業者の取組に対する様々な支援や調整を行いながら、地域の文化の創出に寄与する事業など、行政が責任を持って取組むべき事業を行います。なお、各種事業の各段階においては住民参加の街づくりを進めます。

③街づくり体制の充実

街づくりに係わる体制の拡充や街づくりの効果的な推進に向けた庁内や関係機関の連携強化を進めます。

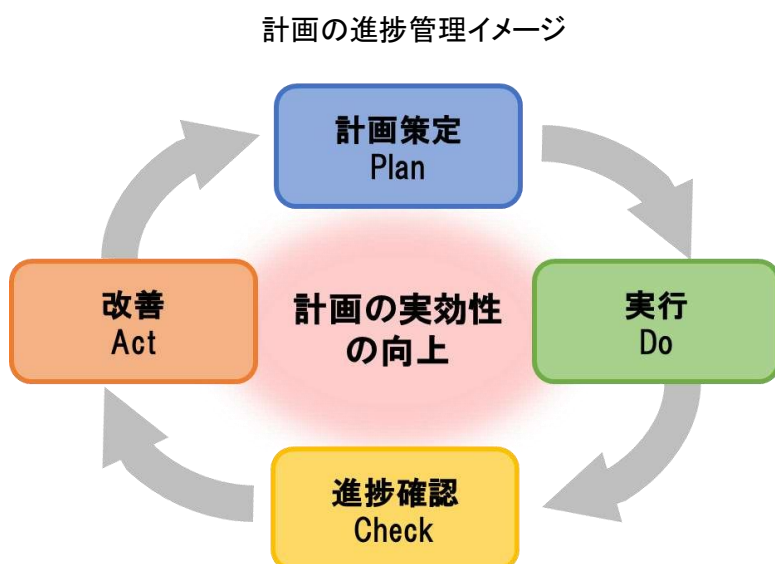
2 PDCAサイクルに基づく計画の進行管理方法

本計画に基づく施策を確実に実行し、実効性のあるものとしていくため、PDCAサイクルに沿って目標の達成状況を定期的に点検・評価し、継続的に見直しを図ります。

また、施策の実行にあたっては、魅力ある取組を区民・事業者・区が連携・協力のもとそれぞれの役割を担い、地域の個性や課題に対応しながら、ハード、ソフトの施策を進めていくことが必要になります。

そのため、本計画の実効性を高め、街の変化や地元意向を的確に捉え、整備・改善の必要性が高い施策を柔軟に対応する取組を進めていくために、整備計画に基づき必要に応じて事業内容、役割分担等を示す「整備計画実行プラン」を順次作成していきます。

この「整備計画実行プラン」は、定期的に進捗状況や事業の効果を確認・検証することとし、必要な事業の実施方法の見直しや新たな事業の追加等を図り、計画の実効性を高め、より効果的な街づくりを推進していきます。



参考資料

1 用語等の解説

(1) 関連計画などの解説

No.	関連計画など	解説
1	目黒区基本構想(平成12年10月)、基本計画(平成21年10月)、実施計画(平成30年3月)	<p>本区は、長期計画として基本構想、基本計画、実施計画を定め、長期計画の下に各種の補助計画を作成し、区政を総合的、計画的に推進することとしています。</p> <p>基本構想は、21世紀初めを展望し目黒区のまちづくりの目標とその実現方策の基本的な方向を明らかにするものです。基本計画は、区の政策に係るすべての分野を含む総合的な計画です。実施計画は、基本計画を踏まえ、必要な事業を計画的に実施するため、財源の裏付けをもった具体的な事業計画です。</p>
2	目黒区都市計画マスタープラン(平成16年3月)	<p>目黒区都市計画マスタープランは、目黒区基本構想・基本計画が掲げる「ともにつくるみどり豊かな人間のまち」を実現するために街の将来像を示し、街づくりの基本的な方向性を示した、本区の都市計画に関わる基本的な計画です。関連する計画・事業との連携のもと、都市計画マスタープランに基づいて、市街地整備の方針や分野別計画の策定、個別事業の展開を進めます。</p>
3	目黒区交通安全計画(平成28年4月改定)	<p>本計画は、目黒区放置自転車対策基本計画を統合し、総合的な自転車対策を含め「交通事故のない安全で快適に暮らすことができるまち」の実現を目指すために策定された計画です。「子どもと高齢者の交通安全対策の推進」、「総合的な自転車対策の推進」を重点的に取り組む施策とするとともに、継続的に取り組む施策として、交通安全啓発の推進や危険・違反運転事故の防止などを掲げています。</p>
4	目黒区交通バリアフリー推進基本構想(平成24年3月)	<p>この構想は、駅やバスなどの旅客施設、道路や公園など公共施設のバリアフリー化を重点的かつ一体的に進めるため、法に基づく重点整備地区内で多くの高齢者や障害を持つ方などが利用する施設と施設間の経路を設定し、この経路をバリアフリー化するための取組の方向性を定めたものです。旅客施設、公共施設の各管理者は、この構想に基づきバリアフリー化の事業を具体化していきます。</p>
5	目黒区みどりの基本計画(平成28年4月)	<p>本計画は、区内のみどりの保全・創出・育成に向けた取組を総合的かつ体系的に進めていくための計画です。5つの基本方針と施策の方向性を設定するとともに、「人々の感性を豊かにするみどりづくり」「みどりが彩るまちづくり」「みどりを活用したコミュニティづくり」の3つを重点的取組として位置付け、推進施策と事業目標を設定して取組を進めています。</p>
6	目黒区地域防災計画(平成29年3月修正)	<p>本計画は、災害対策基本法第42条の規定に基づき、目黒区防災会議が作成する計画です。「自助」・「共助」・「公助」の適切な連携により、防災力の向上を図り、目黒区の地域及び住民の生命、身体及び財産を災害から保護するために、区及び関係防災機関がその機能を有効に発揮して、災害予防、災害応急対策、災害復旧・復興対策を実施することを定めています。</p>

No.	関連計画など	解説
7	目黒区総合治水対策基本計画(平成22年5月)	本計画は、区内全域を対象に「水害から区民の生命身体を守る」、「水害による財産被害を軽減する」、「出水時も必要不可欠な都市機能を確保する」ことを目的に策定されました。雨水貯留・浸透施設の整備促進に加え、雨や水害に関する情報提供の充実、浸水防止や水防体制の強化などを掲げ、区民の皆さんと連携しながら治水対策に取り組んでいきます。
8	目黒区地域街づくり条例(平成19年4月)	区民に身近な街づくりを進めるにあたり、区、区民、事業者の責務を明らかにするとともに、区民の発意に基づく身近な地域単位での話し合いの場や、主体的かつ継続して課題解決に取り組む仕組みや進め方のルールを定めたものです。
9	目黒区産業振興ビジョン(平成27年6月)平成31年3月改定予定	本ビジョンは、企業自らの創意工夫や自助努力を尊重し、その特性に応じた総合的な施策を企業、区民及び区が一体となって推進することを基本方針とする「目黒区中小企業振興基本条例」を踏まえ、本区の産業振興を推進していくための取組の方向性、方針等を示すものです。
10	目黒区観光ビジョン(平成27年3月)	本計画は、地域の構成主体である区民、団体、事業者、区が相互に連携、協力し、地域の歴史や分野、産業、自然などさまざまな観光資源を生かしながら、人々の交流を促進し、にぎわいと活力ふれるまち、文化の香り高いまちを実現しようとする活動である「観光まちづくり」について、本区における活動のあり方や基本的方向性を示したものです。
11	東京都都市づくりのグランドデザイン(平成29年9月)	「都市づくりのグランドデザイン」は、平成28年9月に東京都都市計画審議会から出された答申「2040年代の東京の都市像その実現に向けた道筋について」を踏まえ、2040年代の目指すべき東京の都市の姿とその実現に向けた、都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示したものです。「活力とゆとりのある高度成熟都市」を都市づくりの目標とし、目指すべき都市像の実現に向けて、分野横断的な視点から7つの戦略、30の政策方針、80の取組を示しています。

(2) 用語の解説

No.	用語	解説
【あ】行		
1	エリアマネジメント	地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組のことです。ここでいう「良好な環境や地域の価値の維持・向上」には、快適で魅力に富む環境の創出や美しい街並みの形成、資産価値の保全・増進等に加えて、人をひきつけるブランド力の形成や安全・安心な地域づくり、良好なコミュニティの形成、地域の伝統・文化の継承等、ソフトな領域のものも含まれます。
2	オープンカフェ	道路側の壁を取払ったり、店の前に客席を設けたりし、開放的な演出を凝らしたカフェやレストランのことです。近年においては、都市及び地域の再生、まちのにぎわい創出等のため、占有に関する規制緩和を行った上で、道路空間や河川空間をオープンカフェ等として活用する事例が見られます。
3	オープンスペース	本計画においては、都市における公園・緑地・街路・河川敷・民有地の空地部分などの建築物に覆われていない空間を総称して「オープンスペース」と呼びます。

No.	用語	解説
【か】行		
4	クリエイター	芸術、美術、デザインを始め、さまざまな分野で創作活動の取組や創造的な仕事を行っている人々のことです。
5	公開空地	本計画においては、市街地再開発事業等において設けられた一般公衆が自由に入出りできる広場や空間を「公開空地」と呼びます。
【さ】行		
6	目黒川桜まつり等運営協議会	目黒川の桜が都内でも有数の花見の名所となり、来訪者が非常に多くなってきている状況の中、交通安全対策やトイレ、ゴミ問題、屋台等の出店などの課題が顕著になってきています。こうした課題を解決するため、来訪者が安心して安全に花見できるよう、桜まつりのイベント主催者や地域団体、警察署等の関係機関が連携・協議する場として平成24年12月に設置した協議会です。
7	自転車シェアリング	自由に貸出・返却できる貸し自転車で、借りたサイクルポートとは異なるサイクルポートに返却することができる仕組みです。東京都では平成28年2月から、千代田区・中央区・港区・江東区の4区で区境を越えて相互乗入ができる「広域相互利用」の実験を開始し、平成30年4月現在で、新宿区・文京区・品川区・大田区・渋谷区が加わり、利用できるエリアが9区に拡大しています。 目黒区は、平成31年度までにサイクルポートを20ヶ所設置し、電動アシスト自転車を200台配置する予定です。
8	自転車ナビマーク	本計画では、自転車ナビマークを指します。警視庁では、自転車の安全な通行を促すため、主として車道の左側端に自転車ナビマークの設置を推進しています。 自転車ナビマークは、自転車が通行すべき部分及び進行すべき方向を明示するものです。法令の定めのない表示であり、この表示自体に新たな交通方法を指定する意味はありません。目黒区では、平成30年3月に策定した目黒区自転車走行環境整備計画に基づき、自転車利用の多い駅周辺から段階的に自転車ナビマーク等を整備していきます。
9	自転車歩行者道	縁石線またはさく等の工作物により車道などその他の部分から物理的に分離し、自転車と歩行者を混合交通させる部分を設けたものをいいます。
10	シェアオフィス	企業や個人事業主がスペースを共有して使うオフィスフロアのことです。共用部を充実させ利用者同士の交流を促し、仕事のアイデア醸成につなげる「コワーキングスペース」と呼ぶタイプも増えています。
【た】行		
11	都市型水害	都市のもつ地理的な条件に起因する水害のことで、その災害要因としては、①地表がアスファルトなどに覆われていることによる流域の保水・遊水機能の低下、②地下利用など土地利用の高度化が進んでいることによる被害の増大、③ヒートアイランド現象や地球温暖化が原因と言われる集中豪雨の発生の大きき3つに整理されます。
12	都市施設	都市には、たくさんの方が集まって暮らしており、商工業といった各種産業の経済活動も盛んに行われています。こうした都市での諸活動を支え、生活に必要な都市の骨組みを形作る施設で都市計画に定めることができるものを「都市施設」といいます。

No.	用語	解説
【は】行		
13	バリアフリー	高齢者、障害者の日常生活の妨げとなる障壁(バリア)を取り除くことです。主として、段差の解消など、物理的な障害物の除去という意味で使われますが、社会的、制度的、心理的な障壁の除去など、より広い意味で用いられることもあります。
14	ポケットパーク	チョッキのポケットほどの公園という意味で、都市環境を改善するために設けられた小公園を指します。
【ま】行		
15	目黒川の水質浄化	本区のシンボリックな存在である目黒川は、区民が愛着を持って親しめる貴重な河川空間として整備しています。しかし、下流では川底に堆積したヘドロが腐敗するため、悪臭が発生し、川面が白濁化しています。そこで、水の流れを良くするための工事や清掃及びしゅんせつを行うとともに、平成7年度からは落合水再生センターより河川維持用水を導水しています。さらに水質浄化実験も行っており、その結果を踏まえて水質浄化に対して流域区と連携して東京都へ要望を行っています。
16	めぐろ桜再生プロジェクト	本区が管理する公園・緑道・道路緑地等の桜については、高齢化や生育環境の変化に伴う樹勢の低下により倒木や枝折れが懸念されています。そこで、地域の方のご意見や樹木医等の専門家の意見を取り入れながら桜再生実行計画を作成し、計画に基づいて桜の保全や更新の取組を進めています。目黒川の桜再生実行計画は、平成29年度に作成しました。
【や】行		
17	用途地域	用途地域は、さまざまな用途の建物が混在する無秩序な都市になることを防ぐために、それぞれの地域に適した用途の建物を集めるとともに、地域にふさわしくない用途の建物を制限するものです
【ら】行		
18	リノベーション	古い建築物の機能を今の時代に適したあり方に変えて、新しい機能を付与することです。

2 なかめスタイル

中目黒駅周辺地区街づくり協議会では、平成29年12月、中目黒に対する愛着や誇り（シビック・プライド）をもち、秩序と思いやりある自発的な行動をすることを「なかめスタイル」として、その考え方や具体的な行動を整理しました。一人ひとりが中目黒での暮らしをより良くするために必要なことを見つけ、解決方法を考えて、行動していく、この「なかめスタイル」に基づく意識や行動の醸成を図るための活動として、リーフレットを作成し普及を進めています。

「なかめスタイル」とは。

私たちの街、中目黒での暮らしを、より良くするために必要なことを見つけ、解決方法を考えて、行動していくこと。それが私たちの「なかめスタイル」です。

日々の生活の中で困っている人がいたら、「それは、こうしたほうがいいよね」「それなら、こういうことをしたいよね」「そう一人一人が考えて、みんなで考えて、街と人に思いやりを持って行動できたら、きっとこの街は、もっと良くなる。」

みつける。かんがえる。こうどうする。
一緒にこれからの中目黒を考えよう。

2018年、「なかめスタイル」が始まります。

・発行所・
中目黒の街づくりを進めています
中目黒駅周辺地区街づくり協議会
住区住民会議・町会・商店街・東京都工芸館所目黒支部等

・事務局・
目黒区

・問い合わせ・

info@nakamestyle.com

・ハッシュタグ・

#なかめスタイル

みつける。かんがえる。こうどうする。

なかめスタイル



CIVIC
THINK
FOR
THE CIVIC

いっしょにかんがえてみませんか？ なかめのなかまとできること・・・

**安らぎと思いやりのある中目黒は
誰かの不便をみんなで解消できる街**

でも、
路上に看板やのぼり旗がある街は歩きやすい？
歩きタバコや歩きスマホはまわりにも危なくない？



**緑にかこまれた美しい中目黒は
みんなが人にも自然にも優しい街**

でも、
自転車やバイクが放置された街は美しい？
緑よりポイ捨てされたゴミが目立っていない？



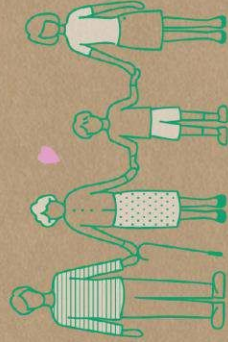
**文化と賑わいのある中目黒は
創造的な人が集い、活気があふれる街**

では、
音楽やアートが身近に感じられる街をつくらない？
街に溶け込むイベントやお祭りを一緒に考えない？



**出会いやつながりをお互いに大切にして
手を取りあって未来を考えられる街**

では、
子供や高齢者にも優しい人のつながりはどうつくる？
街の安全や防災のためにみんなが準備しない？



3 各種調査結果の概要（平成29年度実施）

地区整備計画の改定に向けた各種調査

1. まちの現状・今後想定されるまちの動きを把握するための調査

資料や統計データによる基礎調査

目的：地区の特性や課題を把握するための基礎的な情報（都市基盤・地域資源・人口等）の収集・分析

(1) 店舗・事業所分布状況調査

(2) 実地調査

目的：地区内の店舗・事業所の現状や都市空間の使われ方の把握

調査内容：①地区内の店舗・事業所の分布状況について
②地区内に滞在する人の過ごし方について
③地区内の公園等の公共空間について

< 調査する内容のイメージ例 >



2. 住民・来街者、地区内関係者の意向等を把握するための調査

(3) 住民アンケート

目的：地区内の生活環境に関する実態や今後のまちづくりに関する意向の把握

対象者：中目黒にお住まいの方々(1,800人)

調査方法：郵送配布・郵送回収

(4) 来街者アンケート

目的：地区内への来訪の実態やニーズなどの把握

対象者：中目黒に訪れた経験のあるの方々(400人)

調査方法：インターネット調査

(5) 地区内関係者ヒアリング

目的：まちづくりに関する取組の状況や今後のまちづくりに関する意向の把握

対象者：町会・住区住民会議、商店街・商会・商工会議所、事業者・大学

調査方法：対象者への個別ヒアリングまたは、グループインタビュー

地区の特性、現行の地区整備計画策定時からのまちの変化、住民・来街者・地区内関係者の意向を踏まえ、地域の特性や今後のまちづくりに向けた課題を把握

(1) 店舗・事業所分布状況調査

調査目的

近年、多種多様な業種の店舗・事業所が集積している中目黒駅周辺地区において、どのような業種の店舗・事業所がどこに分布しているのかを把握することを目的とする。

調査方法

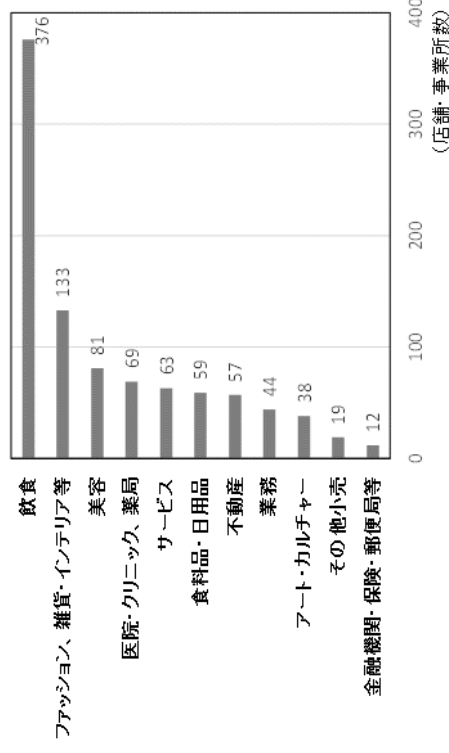
「中目の黒本」に掲載されている店舗・事業所の住所データをもとに、地理情報システム(GIS)を用いて地図上に店舗・事業所を表示する。

※GISでの表示は街区レベル(住居番号(号)前の街区/地番まで)。それぞれの街区にどのくらい店舗・事業所が集積しているのかを業種区分ごとに把握する。

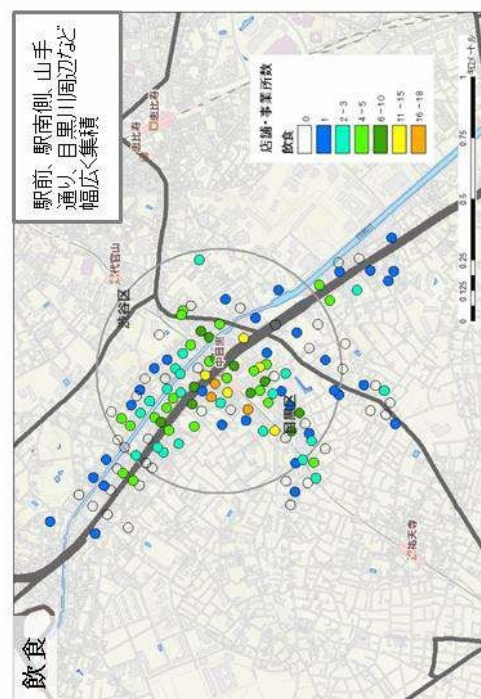
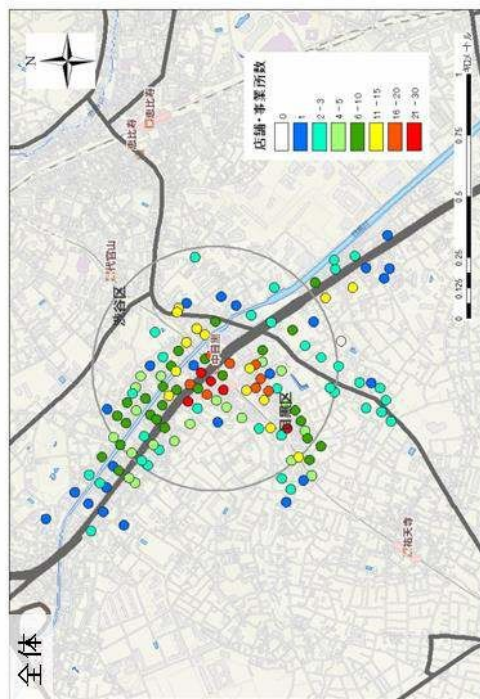
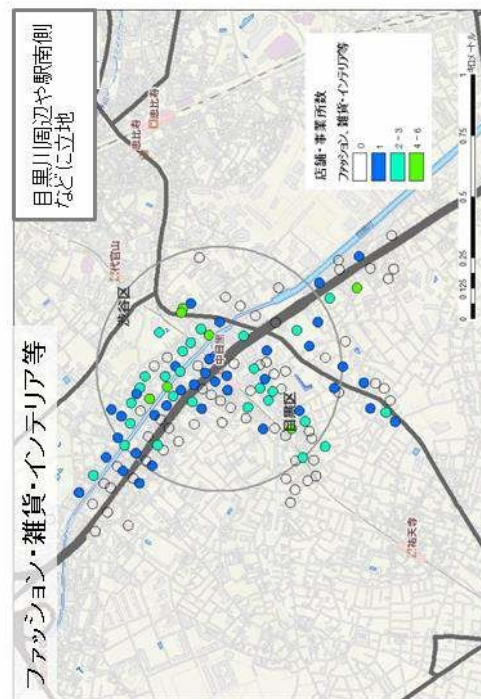
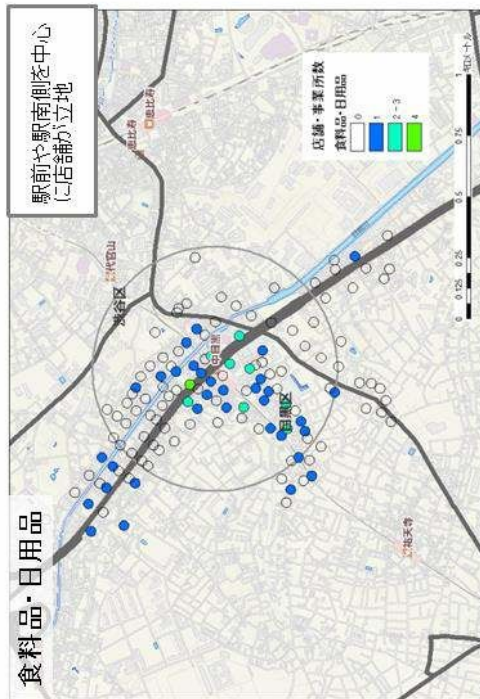
業種区分

大分類	該当する店舗(例)
1 食料品・日用品	スーパー、コンビニエンスストア、青果店、ベーカリー、酒店、100円ショップなど
2 飲食	洋食・レストラン・カフェ、居酒屋、カフェ、和食・日本食、焼肉・お好み焼き・鉄板など
3 ファッション・インテリア等	婦人服、靴、時計・宝石・めがね、アパレル、セレクトショップ、生花、ベージュショップなど
4 その他小売	携帯電話、自動車、車用品、自転車、リサイクルショップなど
5 美容	美容室、化粧品、エステサロン、ネイルサロン、リラクゼーション、下着ショップなど
6 サービス	クリーニング、ホテル、ジム、カラオケ、教室など
7 アート・カルチャー	ギャラリー、スタジオ、美術館、楽器・書籍販売など
8 金融機関・保険・郵便局	銀行、信用金庫、保険代理店、郵便局など
9 業務	会社、事務所、新聞販売など
10 不動産	不動産
11 医院・クリニック、薬局	医院、クリニック、薬局など

【中目の黒本に掲載されている業種区分別の店舗・事業所数】

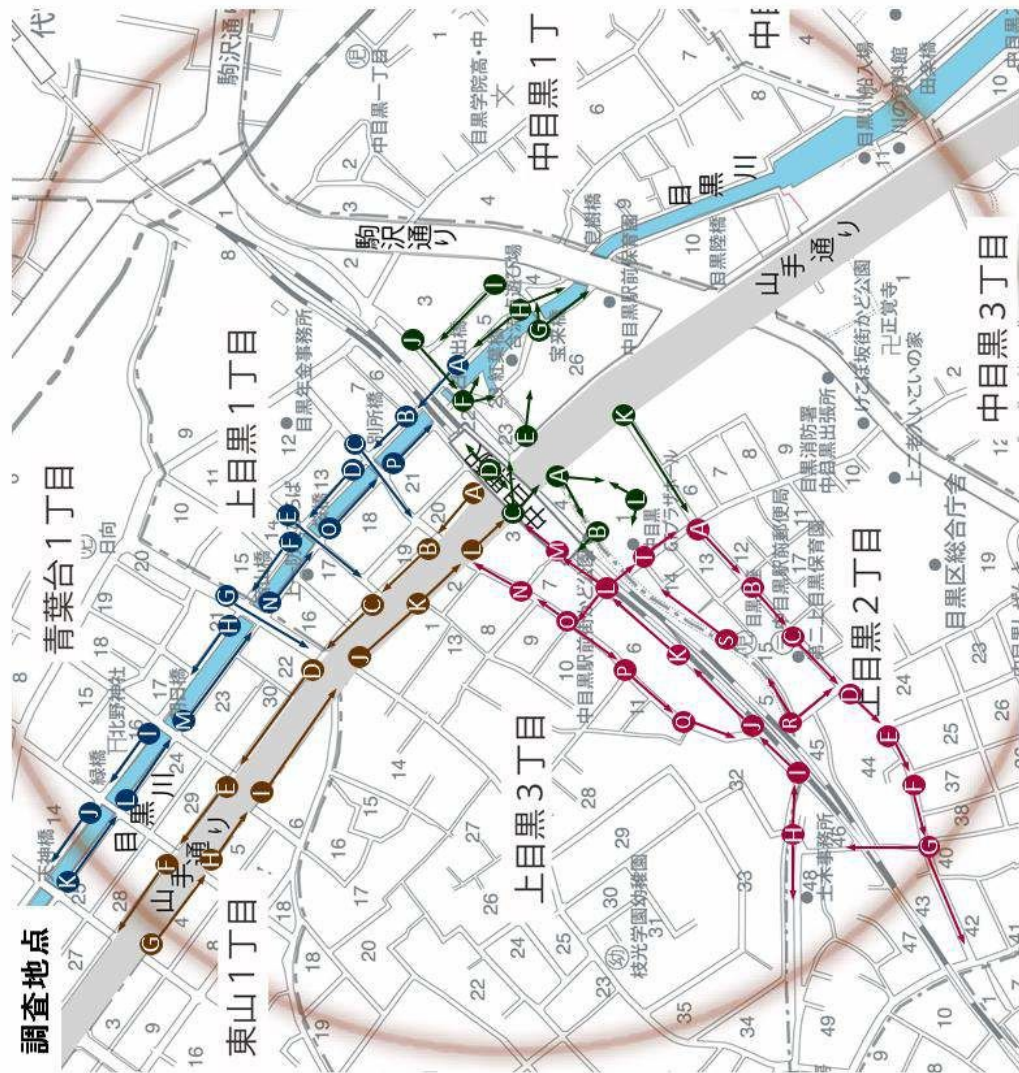


調査の結果(抜粋)



(2) 実地調査

調査目的	中目黒駅周辺における歩行者、滞在者等の動向や公共空間等の使われ方を把握する。
調査実施日	〈平日〉 平成29年11月20日（月）：晴れ 〈休日〉 平成29年11月25日（土）：晴れ
調査時間帯	9:00～20:00 ※1時間おきに調査（11回/日）
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> □ 歩行者及び滞留者の動向（属性、行動等） □ 車両通行状況 □ 路上のゴミ・置き看板等の問題点など
調査方法	各調査地点において、おおむね1時間おきに写真および調査項目についてのメモをとり、その様子を記録する。
調査地点	<ul style="list-style-type: none"> ● 目黒川沿い（16地点） ● 山手通り（12地点） ● 中目黒駅周辺（12地点） ● 駅南商店街エリア（20地点） ※矢印は観測する方向（2方向観測した地点もある）



中目黒駅周辺の特徴

<人通り、人の滞留など>

- 人通り、人の滞留は、平日に比べて休日の方が多い
- 目黒川沿いは特にお昼～夕方にかけて人通りがあり、散策や犬の散歩、買い回りをする人が見られる
- 山手通りや駅南商店街エリアは、平日の通勤・帰宅時間帯、平休両方の昼食・夕食時間帯に人通りが多く、夕食時間帯は20～30代とみられる若者世代が多い
- 人の滞留は、駅改札口周辺、目黒川沿いの橋の上、蔦谷書店前、コンビニ前、中目黒G T地下広場などに多い。駅改札周辺、蔦谷書店前は待ち合わせ、コンビニ前は休憩や飲食、目黒川沿いの橋の上は写真撮影、休憩、立ち話などが多い
- 目黒銀座商店街は山手通り～郵便局間に比べ、郵便局以南の人通りが南に行くほど少なくなり、住民や目的のお店に向かう人がばかりになる

<問題行為や危険箇所など>

- 置き看板やディスプレイのはみ出し、客引きは、特に山手通り沿いに多い
- 客引きは平日に比べて休日の方が多く、活動エリアも広い
- 放置二輪は山手通りや駅周辺など交通便利性の高いと思われる場所や、目黒川沿いの駅から遠いエリアなど人通りの少ない場所に多い
- ごみのポイ捨ては駅南商店街エリアの人通りの少ないエリア（高架下や児童遊園など）に多い
- スーパー（ライフ）脇の通りや蛇崩川緑道と高架下の交差点は、道幅が狭いものの自転車および自動車の交通量が多く、特に通行の多い通勤時間帯や夕方は危険
- 駅北口の山手通り横断歩道は、歩行者の通行量が多く、信号待ちにより歩道が狭い。休日はさらに人通りが増え、斜め横断や赤信号に変わってからの横断など、危険行為が見られる

(3)住民アンケート、(4)来街者アンケート

住民アンケートの概要

【調査目的】

中目黒駅周辺地区における住民の行動や地区に対する意識、今後のまちづくりに関する意向を把握することを目的とする。

【調査項目】

- ①基本属性について
性別、年代、職業、家族構成、居住地、居住年数、
住居形態 など
- ②地区内の利用状況について
目的ごとに利用するエリア
- ③地区に対する意識について
地区の住みやすさ、魅力に感じているところ、
困っていること など
- ④今後のまちづくりについて
必要だと思ふ施設等の整備・改善、充実してほしい
まちづくりの活動、望む街としてのイメージ など

【調査仕様】

- ①調査期間 平成29年9月20日～10月10日
- ②回収数 602サンプル(33.4%)

来街者アンケートの概要

【調査目的】

中目黒駅周辺地区に来訪経験がある人を対象として、地区への来訪の実態やニーズなどを把握することを目的とする。

【調査項目】

- ①基本属性について
性別、年代、職業、世帯構成、居住地
- ②地区内での行動について
利用目的、利用頻度、利用時間帯、交通手段、
よく利用するエリア など
- ③地区に対する意識について
地区の魅力、地区で気になること・困ったこと など
- ④今後のまちづくりについて
望む街としてのイメージ など

【調査仕様】

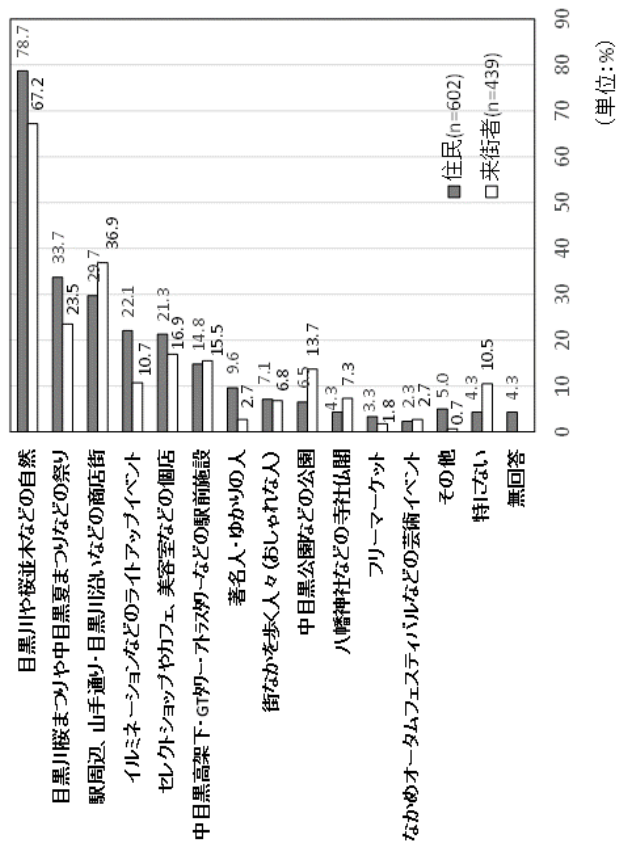
- ①調査期間 平成29年9月22日～9月26日
- ②回収数 439サンプル

調査の結果(抜粋)

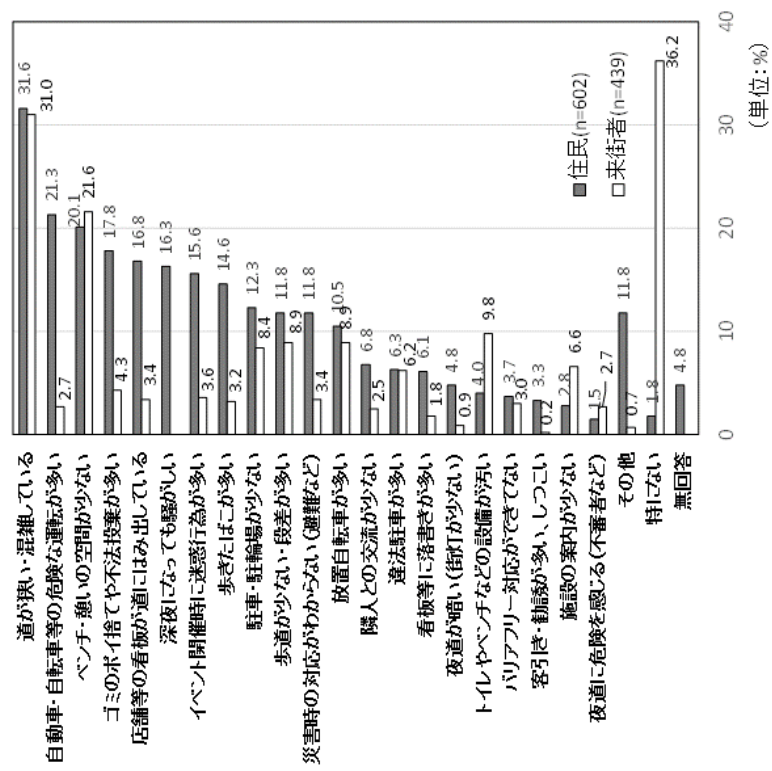
住民アンケート・来街者アンケート結果の比較

- 地区内の魅力を感じる場所は、住民・来街者ともに、「目黒川や桜並木などの自然」が多い
- 次いで、住民は「目黒川桜まつりや中目黒夏まつりなどの祭り」が、来街者は「駅周辺、山手通り・目黒川沿いなどの商店街」が多い
- 地区内で困ることは、住民・来街者ともに、「道が狭い・混雑している」が多い
- 次いで、住民は「自動車・自転車等の危険な運転が多い」が、来街者は「ベンチ・憩いの空間が少ない」が多い

【地区内の魅力を感じる場所(住民・来街者の比較)】



【地区内で困ること(住民・来街者の比較)】



(5)地区関係者ヒアリング

調査目的

中日黒駅周辺地区に関わりをもつ、地域の関係者を対象に、地区の変化や問題点に関する情報の収集や、まちづくりに関する取組の状況及び今後のまちづくりに関する意向を把握することを目的とする。

調査対象

街づくり協議会メンバーである、町会、住区・住民会議、商店街、商工会議所をはじめ、中日黒駅周辺地区に関わりのある事業者や大学を対象とする。

ヒアリング対象	ヒアリング参加者	ヒアリング実施日
町会・住区住民会議	新上六町会、上一東町会、上目黒一丁目町会、伊勢脇町会、烏森住区住民会議	2017年10月10日
	青葉台日向町会、新上六町会、上三烏森町会、上二東町会、上三町会、中目黒八幡町会、菅刈住区住民会議、中目黒住区住民会議	2017年10月12日
商店街・商工会議所	中目黒駅前商店街振興組合、目黒銀座商店街協同組合、中目黒西銀座商店街振興組合、中目黒GTプラザ商店会	2017年9月26日
	東京商工会議所目黒支部	2017年10月3日
事業者・大学	宮川製菓株式会社	2017年11月8日
	株式会社ゼルス	2017年10月4日
	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社	2017年10月5日
	スターバックスコーヒーージャパン株式会社	2017年11月14日
	株式会社LDH JAPAN	2017年10月10日
	東京音楽大学	2017年9月28日

ヒアリングの結果(まとめ)

<地区の変化>

- ・ 目黒川沿いなどを中心に、エリアを拡げながら、店舗やオフィス、住まいの入れ替わりが活発に起こっている
- ・ 昼夜・平休日それぞれ違う特徴をもった人々が中目黒を利用している

<地区が抱えている問題>

- ・ 地区に関わる人が増えて多様になることで、飽和や不足が生じて、モラルを保ちづらくなっている
- ・ 様々な人々が地区に関わる一方で、主体間での情報の伝達や、人々のつながりが薄れてきている

<地区で実施しているまちづくりの活動>

- ・ 清掃活動は、各主体がそれぞれ実施している
- ・ 桜まつりやジュエルドームなど地区を代表するイベントで各主体が協力して実施している
- ・ アートのイベントなど新しいイベントも開催されてきている
- ・ 現在は活動を実施していないが中目黒に貢献したいという意識をもつ事業者が見られる

<まちづくりの活動を実施するうえでの問題点>

- ・ 町会や商店街では人材不足が生じている
- ・ 新しい事業者や住民による地域活動への参加が少ない
- ・ 街全体として活動するための主体間の連携が十分でない
- ・ 活動の場が不足している
- ・ 各主体で情報を共有できていない

<まちづくりの活動に関するアイデア/取組みたいこと>

- ・ 新しい住民が活動に参加しやすい工夫、住民向けのイベントの開催
- ・ 生活に関するルールの周知や緊急時に備えた活動の実施
- ・ 地域の関係者が連携できる組織の構築、情報共有の仕組みづくり
- ・ 目黒川を生かした取組(通りの名称をつけるなど)
- ・ アートやデザインを生かしたイベントの開催

<今後のまちづくりに対する意向>

- ・ 地域に関わる人々による話し合いの場づくり・連携した活動の推進
- ・ 次世代を担う人材の育成・継承
- ・ なかめスタイルの普及
- ・ 街としてのイメージづくり、ブランディング
- ・ 街への集客及び回遊性の向上

ヒアリングであがった中目黒の魅力・将来の姿として期待されていること

<中目黒の魅力>

【様々な人々が行き交い街に活力がある】

- ・ 駅前には1日約6万人が集まるだけの集客力がある。また、平・休日での来訪者層が違いそれぞれ魅力がある。
- ・ 渋谷や代官山など魅力と個性をもつ街にも近い。電車や地下鉄など交通利便性が高い。

【ゆるやかで心地よい環境がある】

- ・ 目黒川や桜などの木々があって、ゆったり時間が流れているという感覚がある。
- ・ 中目黒の良いところは、いろんなものが混在している居心地の良さだと思う。

【創造的で感性豊かな人々が集まっている】

- ・ クリエイターなどモノ創りをする人たちが多くいる。
- ・ こだわりの特長をもつ店舗などがある。

【住む人・訪れる人に品があり意識が高い】

- ・ 美意識が高く、知的好奇心をもつ人たちが多くいる。
- ・ 住民にモラルがある。□美意識の高い女性が訪れている。

【街のイメージが良く、発信力がある】

- ・ 若い人たちが一度は住みたい場所になっている。
- ・ 住む人も働く人も自分の街を言いたくなる。
- ・ ブランドとして発信できる可能性を感じる。

<将来の姿として期待されていること>

【音楽やアートを中心に文化を創造・発信できる街】

- ・ 音楽やアートを楽しめる場所になりたい □日常生活の中でアートの触れるシーンをもっと増やしたい。
- ・ クリエイティブシティにしていきたい。
- ・ 2020年は世界中が東京を見るタイミングであるので、中目黒から若い才能を世界に発信したい。

【「今」と「これから」が調和する街】

- ・ これまでの魅力と新しい魅力が融合しているようなシーンを見せられたら良いと思う。
- ・ 従来から住み・働いている人々と新しく住み・働きはじめた人々が仲良くできる場所にしていきたい。

【品位や感性を生かした街】

- ・ ポイ捨てしたりすることがカッコ悪いというまちの雰囲気になってほしい。
- ・ 女性の感性を街づくりに生かしてほしい。